

長期予報 (9月～10月までの天候見通し)

令和4年8月23日発表

	コメント	気温	降水量
9月	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	平年並か高い	平年並
10月	天気は数日の周期で変わるでしょう。	やや高い	平年並

■反収・食味UPを目指して ～黄化割合を確認して刈取適期を見極めましょう～

- ①異物異品種混入防止(GAPの実施):
コンバイン・乾燥調製機械一式・施設内の清掃点検の徹底、作業圃場の品種確認を行いましょ。
- ②適期刈り取り: 圃場毎の登熟状況(黄化状況)を確認し、適期に刈取りましょ。(黄化割合80～90%が適期です。)
- ③乾燥調製: 水分(目標玄米水分15.0%以下)と適正量目(30.5kg)の確認、ロールの閉めすぎ注意。

生育状況

本年については平年より2日程度早い出穂期を迎えました。その後、8月中は日照不足等の不順な天候が続き、登熟が一時緩慢になりました。また、生育期間通して、天候の変化が激しく、圃場ごとにバラつきが大きい為、それぞれ登熟状況をよく観察し、適期に刈り取り作業ができるよう心がけましょ。

異物・異品種混入防止対策の徹底 異物・異品種の混入は産地(生産者)の責任です!!

ポイント①: コンバイン・乾燥調製機械一式・施設内の清掃点検の徹底、作業圃場の品種確認を行いましょ。

1. 異物混入防止(石・小枝・ガラス・金属片・ねずみ糞など)

毎年、小石等の異物混入のクレームが発生しています!

- ① 収穫・乾燥調製機械一式(施設)の清掃・整備の徹底。
- ② 水田内の清掃(特に道路沿いの水田)。
- ③ 機械稼働始めの米は飯米対応する。
- ④ 乾燥調製施設内にジュース缶等は絶対置かないようにしましょう。
- ⑤ 水田内の雑草種子の混入に注意ましょ。(クサネム等、図1参照)



缶類・ビン類・ペットボトル・電池類

※水田雑草「クサネム」を確認した場合は手取り除草をましょ。抜き取ったクサネムは畦畔に放置しないようにしましょう。

万が一、クサネムの種子が玄米に混入すると、除去する事が困難になります。



図1: 水田雑草: クサネム

2. 異品種混入防止(異品種・モチ米など)

- ① 清掃の徹底(収穫・乾燥調製機械一式・施設)
- ② 作業圃場の品種確認
- ③ 集出荷時の品種および作業工程の確認

3. 玄米への臭いの付着について(移り香防止)

- ① 油の臭いがするとのクレームが来ております。近くに油類は置かないようにしてください。
- ② 不完全燃焼防止のため、収穫機械・乾燥調製機械等に、不良燃料を使用しないでください。

適期刈り取りの目安

適期刈り取りによる品質・食味の向上を目指ましょ。

ポイント②: 圃場毎の登熟状況(黄化状況)を確認し、適期に刈取りましょ。

刈り取り時期の判定は、出穂後の積算温度と穂の熟色(黄化状況)を総合的に見て判定する!

1. 出穂後の平均気温積算値による刈り取り時期の推定

- ①基準日を確定させる・・・出穂40～50%の時期(表1)。出穂期から45日前後。
- ②作付け品種の、積算温度による刈り取り適期幅(範囲)を把握する。
※ひとめぼれの場合、積算温度が900～1050℃が適期刈り取り時期の目安となります。
- ③基準日を「表2:胆沢地域、今後の積算温度到達の予測」に当てはめ、刈り取り時期を推定する。

■表1: 令和4年出穂期40～50%(基準日)

品種名	①出穂期(基準日)		②積算温度による刈り取り適期範囲
	本年	(参考)平年	
ひとめぼれ 130m 以下	7月30日～8月2日頃	8月4日頃	900～1,050℃
ひとめぼれ 130m 以上	8月3日～6日頃	8月8日頃	

■表2: 胆沢地域、今後の積算温度到達の予測 (8月31日現在、以降は平年値を使用)

出穂期\温度	900℃	950℃	1,000℃	1,050℃
7月28日頃	9月4日頃	9月6日頃	9月9日頃	9月11日頃
7月30日頃	9月6日頃	9月9日頃	9月11日頃	9月14日頃
8月1日頃	9月9日頃	9月11日頃	9月14日頃	9月16日頃
8月3日頃	9月10日頃	9月14日頃	9月16日頃	9月19日頃
8月5日頃	9月14日頃	9月16日頃	9月19日頃	9月22日頃
8月7日頃	9月16日頃	9月18日頃	9月21日頃	9月24日頃
8月9日頃	9月18日頃	9月21日頃	9月24日頃	9月27日頃
8月11日頃	9月21日頃	9月24日頃	9月27日頃	9月30日頃



8月中は日照不足等の天候不順で経過しており、圃場ごとの登熟のバラつきが目立ちます。

上記の積算温度到達の予測を目安とし、

最終的には穂の熟色を確認した上で最終判断をすることが重要です!

異物・異品種混入防止のため、事前にコンバイン・ハーベスタ・乾燥機・粃摺り機等の点検清掃は、必ず行いましょ。

2. 穂の熟色による判定

～1の積算温度で推定した時期に到達後、判断する～

生育が平均的なところの穂の中で、1穂の**籾の80～90%が黄化**
(または親穂の**90%が黄化**)した時点が刈取り適期の目安となります。



図2: 穂の熟色による判定

3. 刈り取り期間の目安

刈り取り期間は、刈り始めから2週間が目安となります。
穂軸が褐色になると胴割れ米や茶米が多くなるので注意しましょう。

表1: 黄化籾の割合による刈取適期

刈り取り作業	～全体的に青みがなくなる ころが刈り取り適期～	黄化籾	70%	80%	85%	90%	95%
		自然乾燥	刈取早い	刈取適期	刈取適期	刈取遅れ	
機械乾燥	刈取早い	刈取やや早い	刈取適期	刈取遅れ			

1. コンバイン刈り

- ① 籾水分が25%以下から始め、2週間以内に刈り取りましょう。
- ② 収穫後の生籾は、ヤケ米防止のため、速やかに乾燥機に張込み乾燥をしましょう。
- ③ 収穫は午前10時頃～午後5時頃を目安とし、籾が濡れている時間帯の刈り取りは避けましょう。
- ④ 品質の均一化のため、**生育が遅れた場所や倒伏・穂発芽のあった場所、病虫害の被害があった場所**については**刈り分け**を行いましょ。
- ⑤ 適期を過ぎての刈り取りが予想される場合は、所有する乾燥機とカントリーエレベーター等の体系を組み合わせ、1日の刈り取り面積を増やし品質保持に努めましょう。
※上記対策を講じててもコンバイン作業受託面積が多く、明らかに刈り遅れが予想される場合は、**他の受託者に応援要請するなど、品質保持最優先で胴割れなどの品質低下防止**に努めましょう。

2. バインダー刈り

～刈り取り適期幅でもやや早めの刈り取りが望めます(棒掛け期間も登熟は進みます)～

- ① 刈り倒し後はその日のうちに棒掛けとし、**地干しは絶対にしないように**しましょう。
- ② 棒掛け乾燥期間は20日を限度とします(乾燥期間が長いと胴割れの原因となる)。20日間を越えても水分が適正より高い場合は、火力乾燥で仕上げるなど品質低下を防ぎましょう。

乾燥調製

ポイント③: 水分(玄米水分15%以下)と適正量目の確認(30.5kg)・ロールの閉めすぎに注意

異物・異品種混入防止に機械の清掃を徹底しましょう!

- ① 二段乾燥を基本とし、籾水分が16～17%程度で一時中断・放熱後、再度火力乾燥して、仕上げ水分は15%以下に仕上げましょう。

※乾燥終盤(仕上げ時)は手持ち水分計(図3)で確認・チェックしましょう。
(乾燥機の水分計が正確でない場合があるため)

- ② 乾燥機への張込み量は、80%を目安としましょう(少なすぎても多すぎてもトラブルのもと)。
- ③ 急激乾燥や高温乾燥は品質・食味低下となるので、絶対に行わないようにし、晴天時は設定基準より5℃程度低めに設定し、乾燥調製を実施しましょう。
- ④ もみ摺りロールの点検調整は必ず行い、適正流量での作業に努めましょう。
- ⑤ 1袋当りの量目、**皆掛30.5kgを必ず確認**しましょう。



図3: 水分計
※資材センターで取り扱っております

出穂・開花に**バラツキのあった圃場**や倒伏した圃場では登熟程度・水分分布に大きな差があります。

手動による高温急激乾燥は、乾燥ムラを引き起こすばかりか、胴割れ粒の発生を助長します。

火力乾燥作業は例年以上に慎重に行い、胴割れ粒等の発生・品質低下を防ぎましょう!!

収穫後の圃場管理

1. 排水対策の実施

コンバイン作業後、クローラーの旋回後などに溝ができ、水が溜まりやすくなる事から、速やかに排水が進むよう溝掘りを行い、乾田化に努めましょう(稲わらの腐熟促進にもつながります)。

2. 稲わらの秋鋤きこみ

生ワラのすき込みを行う場合は、必ず下記**腐熟促進資材を散布**し、可能な限り気温の高い時期に行いましょう。
(微生物の活動が活発なので、ワラが腐り易い)

※ 移植後にガス湧きが強くなる圃場がある場合は、確実に実施しましょう。

【10a当りの使用例】

栽培体系	資材名	10a当りの使用量	資材の特徴
全ての栽培体系で使用できます。	ふるさと大地2号(秋)	2.5袋 (50kg)	土壌改良+腐熟促進
	石灰窒素	0.5～1袋 (10～20kg)	腐熟促進

※ 石灰窒素は農薬登録された肥料ですが、腐熟促進のみを目的として秋施用する場合は、農薬および化学合成窒素としてカウントされません。

※ 石灰窒素を用いた、ノビエの除草については別途JAにご相談ください。

3. 斑点米カメムシ対策(畦畔除草剤の使用)

近年、畦畔の草刈りにかかる作業時間が増えているだけでなく、畦畔雑草がカメムシ被害を助長する要因となっています。その対策として秋の畦畔除草剤の散布をオススメします。秋に畦畔除草剤を散布するメリットは主に下記3点が挙げられます。

1. 翌春の草刈り作業を省略できる。
2. カメムシの翌春の生息場所が無くなるため、被害を抑えることができる。
3. 野ネズミの越冬場所を無くすため、畦畔の崩れや漏水の原因を減らすことができる。

但し、使用する際には強風時の使用を避け、飛散(ドリフト)防止用カバーを使用するなどして周辺作物への被害がないように配慮願います。使用例については、下記表を参照。

資材名	希釈倍率	散布液量(10a当たり)	使用時期
ラウンドアップ マックスロード	100倍液 ※ラウンドアップULV5使用時は10倍	少量散布時: 20～250 ※ラウンドアップULV5使用時は50	収穫後 (畦畔雑草が枯れる前) ※おおよそ11月末まで
サンダーボルト007	100～200倍液	1000	
バスタ液剤		100～1500	

※8月一斉外務にて、上記3点の申込書を配布していますので、是非ご検討をお願いします。

水稲栽培管理記録簿・水稲農業生産工程管理手法(GAP)チェックシートへの記入について

■記録用紙の内容を確認し、取り組み項目に応じてチェックしましょう。

～お知らせ～

① 生産資材・生活資材のご注文・配達先は…

「拠点配送センター」 0120-516-911 (フリーダイヤル)

② 生産資材・直取り・窓口供給品は…

「胆沢資材センター」 47-1612

・平日営業時間: 午前8:30～午後5:00

休日営業時間(土曜日のみ): 午前8:30～正午12:00

※10月末まで土曜日午前中営業(※日曜日・祝祭日は休みとなります。)



秋の農作業安全月間に入ります!! 9月15日～11月15日「農作業 ゆとりと声かけ 二刀流」